

要約

マーシャル劇場長と所員のアンゲラ・グムボルトさんが博物館の展示やマリオネットの作り方や人形使のお仕事など、アウグスブルクの有名な人形劇場のことをいろいろ説明してください。

街頭録音： 「それは青緑色の鱗を持ったドラゴンですね。」 「恐竜なんですが、とってもかわいいの」「そしておっきいお腹してるよ」

語り： さあ、みなさんもうお分かりでしょうか？そうです、ドイツの有名な小さな恐竜、ウルメルのことです。彼はアウグスブルクに、もっとはっきり言うと、シュピタール通り 15 番地に住んでいます。そこにはアウグスブルクの人形劇場があり、ウルメルはその中のスターの一人です。

アウグスブルクのプッペンキステは人形劇場で、フッガライや大聖堂と肩を並べるアウグスブルクの目玉です。1948 年にヴァルター・エーミッヒェンによって創設されました。1943 年にはすでにヴァルターと彼の家族がプッペンキステの前身として、プッペンシュラインという名で公開していました。しかしそれはアウグスブルク空爆によって壊されてしまい、人形たちだけが無事でした。どのように今日のような有名な人形劇場になったのか、5 年間プッペンキステで働いているアンゲラ・グムボルトさんにお話を伺いました。

グムボルト： すべての始まりは、自分たち独自の人形劇場を持つという、ヴァルター・エーミッヒェンの願いからでした。1944 年にプッペンシュラインが空爆によって焼失してしまっただけからは、彼らは 4 年後のプッペンキステ完成を目指しました。彼が、この素晴らしい劇場を創り、63 年以上にわたって人気を誇るこのドイツでも指折りの劇場にしたのです。

語り： みんなが知っている有名な劇場ですが、アウグスブルクの学生たちは、プッペンキステに一度は行ったことがあるのでしょうか？

街頭録音： 「行ったことないわねえ」「もう長く行ってないなあ」「一回いってみなくちやね」

語り： 学生たちにも人形劇を見る価値がもちろんあり、ハイリッヒガイスト病院近辺の旧市街をよりよく見る機会にもなります。

行き方はとても簡単です。トラムの駅、ローテストアを降り、ローテ・トアヴァール通りを旧市街の方向へと進みます。アイルランドカフェと通りすぎたらそこはもうプッペンキステです。あまり目立たない、緑の漆を塗ったドアの奥にはロビーがあります。訪問者は年間 6 万人にも及びます。

劇場の横には人形スター達やプッペンキステの映画のことがよくわかる博物館もあります。シーンを童話のなかに引きこむように変えるところや、エキゾチックでファンタスティックな世界観を見ることができます。もちろんここには、みんなにとっても愛されているウルメルもいます。

グムボルト： 人気のある人形たちは、昔からテレビで放送されていたものなので、常設展示は何も変わっていません。実際、テレビでみたことはあるが、本物を見てみたいと思われるお客様は、プッペンキステ劇場博物館を訪れた際、一番初めにどこにジムクノップとウルメル、そして小さな大様のカレヴィルシュがいるのかを知りたいがります。だからこれらのスターはいつも変わらない場所にいるのです。

特別展示は6ヶ月ごとに新しく変わります。そのため、私たちはいつも新しいテーマを選び、そのテーマにそって全ての操り人形から選び出します。また、学校の生徒達や幼稚園児たちがこの操り人形やテーマから何かしらのものを見出したり、学んだりできるように、様々な工夫をしています。

語り： 6000体以上もの操り人形は、アウグスブルクの大きなルームシェアの部屋に値します。しかしどのように人形たちは糸によって動かされているのでしょうか？そのことについて、劇場監督のクラウス・マーシャルさんにお話を伺いました。彼はこの代々受け継がれてきた家族企業の3代目です。

マーシャル： 一体の人形を制作するのに、平均して50時間かかります。手と足を彫って、胴体の骨組みをつくり、人形をあやつる十字架の木の部分を糸でつなぎあわせたりするのです。

頭と手と足はシナノキで作ります。身体の部分は様々な硬い木を組み合わせて組み立てます。そしてそこにスポンジラバーを取り付け、糸を繋ぎあわせます。

語り： 女性の操り人形の胸とその周りの服の部分は、同様に彫り込まれます。いわゆる「紀のように豊かで固い胸」です。

舞台の上で、操り人形たちはようやく息を吹き込まれます。1日2回の公演では、「眠れる森の美女」や、「大泥棒ホッツェンプロッツ」のようなメルヘンに並んで、大人向けの劇も上演されます。例えば「真夏の夜の夢」や「小さな魔笛」や政治の風刺をした寄席（よせ）などです。

マーシャルさん自身も職業教育を施す人形操り師で、何がこのプッペンキステでの仕事で大事かをご存知です。

マーシャル： 良い人形操り師とは、かなりの理想主義者で、手先が器用で、チームワークのいいひとです。またクリエイティブで、寄席に対してアイデアを出してくれる人です。

語り： 現在プッペンキステでは一つに劇につき16人が働いています。人形劇と並行して彼らの全員が2つの活動領域を同時進行しています。例えば指物師（さしものし）の仕事や音響などです。また、ベルリンとシュトゥットガルトにはプッペンキステの操り師がその場に入って指導するという特別な学科があります。基礎の職業訓練はおよそ3年間続きます。しかし主役級の役をこなすには、そのまた3年かかります。2メートル20センチの糸の長さで、少なくとも10本の糸があることは、驚くことではありません。

マーシャル： 私たちの仕事はフルタイムです。1年におよそ420回の公演をここで行っていきます。また私たちは様々なゲスト公演のツアーも行っています。1年のうち5週間は各地の小児科でショーをしています。現在は幼稚園でパピリオプロジェクトを行っていて、目下のところまだ2つのツアーを準備しています。もし何もかもうまくいけば、今年中に韓国を訪問し、湾岸地帯も訪れる予定です。

語り： 踊る人形たちの魅力は子供だけでなく、大人たちにとっても評判を欠くことはありませんでした。アウグスブルクの劇のチケットはひっきりなしに売り切れています。マーシャルさんはその理由を知っています。

マーシャル： なぜならば、デジタルメディアには1つできないことがあるからです。それは空想力を刺激することです。デジタルメディアは比較的完璧です。最近のこども映画を見てみると、例えばファインディング・ニモやその他の映画は素晴らしくアニメーションしているし、お話もほんとうに良くできています。でもそこにはもう、ファンタジーの余地はありません。そしてこの点が人形劇で今でも際立っているところです。私たちはファンタジーのための余地を作っているのです。

語り： 将来的にも有名なアウグスブルクのキステンデッケルを開け、人形たちを踊らせましょう。もし今、見たいという気持ちになったなら、ここに重要な情報を載せておきます。

プッペンキステへは市電の駅、ローテストアから、Rote-Tor-Wall-Strasseを旧市街の方向に進むと見えてきます。シュピタル通り15番地です。プッペンキステ博物館には常設、特別展示が並び、火曜から日曜の10時から19時までオープンしています。学生の入場料は、火曜・水曜・木曜は3,5ユーロ、他の日は4,5ユーロです。マリオネットライブを見たいなら、数ある公演の一つを訪ねてみるといいでしょう。メルヘンから寄席まで、おもしろいものがたくさんありますよ。

グムボルト： その有名さ故に、劇のチケットは99.9%売り切れます。例えば4月に新しい公演予定が発表されると、お客様がどっと押し寄せ、クリスマスまで購入されます。もしクリスマスのチケットを買わずに長く待っていたら、すべてのチケットが売り切れてしまうからです。

語り： だから、この Podcast を聞いているあなたたちも、買いそびれないようにしてください。詳しくはウェブサイト、www.augsburger-puppenkiste.de でチェックしてくださいね。みなさん、楽しんできて下さい！

さあ、私もいまから行こうと思います。この1年間行ってなかったのが信じられません。ウルメルを生で見れるのを楽しみにしています。

筆者:

Claudia Dörr, Nina Schmidt

翻訳：段上佳代